

中国科学院大学で、7月2日（火）から7月6日（土）まで、” Theoretical modeling of earthquake rupture” というタイトルで、毎日、(1)8:00–8:50, (2)8:50–9:40, (3)10:00–10:50, (4)10:50–11:40 という時間割の下、講義を実施した。総計、20 時間の講義である。講義は板書を中心としながら、パワーポイントも併用した。毎回、20 人強の出席者があったが、試験を受けたのは 19 名である。なお、試験は、自宅に帰ってから解き、翌日に提出という形にした。これは、学生からの要望（短期間の間での集中した講義のため、じっくりと考える時間がほしいとの要望）と、講義の進捗が想像していたよりも遅かったため、試験に時間をとられるよりも講義を進めたいというこちらの希望にもよる。講義の進捗が遅かったという事情は、受講者の背景の違いを考え、基礎的理解に十分に時間をとったためである。試験の結果を概観すると、それにもかかわらず基礎的な理解が不足している学生がやや多いと言わざるをえない。基礎的理解も目的に含め、ある程度体系的な講義を行うとするならば、今後とも、一人が通して 20 時間の講義を実施したほうが良いのではないかと思う。なお、採点は滞在中に行い、結果を提出してきた。滞在中、孫教授には大変お世話になった。

中国科学院大学は、地下鉄 1 号線の玉泉路駅のすぐ近くにあり、毎日、講義後、午後は地下鉄を使って、酷暑の北京の街を探訪した。その際、地下鉄車内では、総計 5–6 回くらい若者から席を譲られた。そんなに年をとってみえるのだろうか。ちなみに日本では、そのような経験は皆無である。それにしても、ありがたいことであった。

写真 講義棟の入り口に掲示していた集中講義の講師と講義名のリストの一部

		道大学	geodynamics (地球动力学引论)	
615009Y	Roberto Sabadini	意大利米兰大学	Viscoelasticity, global dynamics and long term Earth's rotation (全球动力学及地球旋转的长期变化)	17 M
615012Y	吴忠良	中国地震局	Modern Theory of Earthquake Forecast (地震预测的现代理论)	
615014Y	Lanbo Liu	康涅狄格大学	Environmental and Exploration Geophysics (环境和应用地球物理学)	
615017Y	范天佑	北京理工大学	The advancing front of fracture theory (断裂力学专题)	
615039Y	Teruo Yamashita	日本东京大学	Theoretical modeling of earthquake rupture (地震破裂的理论模型)	
615040Y	Paul Tackley	ETH Zurich	"Planetary physics and planetary evolution: Observations and modelling (行星物理与行星演化: 观测与建模)	
615041Y	Yves Gueguen	巴黎高师	Do fluids matter for rocks elastic and mechanical properties? (流体对岩石弹性和力学性质的影响)	
615042Y	Siegfried Lallemand	Cergy-Pontoise University	Exploring the subduction zones & convergent margins (探索俯冲带与板块边缘演化机制)	
		日本京都	Active Tectonics and Rupture Mechanisms of Seismogenic Fault (活动构造与地震破裂机制)	